



トキワトラノオ	<i>Asplenium pekinense</i> Hance	絶滅危惧 I 類
		チャセンシダ科
選定理由	生育地が少ないうえ、生育環境が林縁部の岩場という開発の危険にさらされた不安定な場所であるため、種の存続への圧迫に絶えずさらされている。	写真(村瀬正成)
形態の特徴	常緑性のシダ。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉身は2-4回羽状深裂。コバノヒノキシダに似るが、最下羽片は短く、葉質は厚く、表面にやや光沢がある。	
生態的特徴	やや日当たりの良い山地や路傍の岩上、石垣に生育する。	
分布状況	本州(関東地方西部以西の暖地)から沖縄に分布する。岐阜県では県南中部に生育地がある。	
減少要因	山林開発、道路工事などによる生育地の消失。道路脇法面のコンクリート補強工事により生育地が失われた場所も多い。	
保全対策	生育地の山林開発、治山工事、道路工事を控える。乾燥には比較的強い種であるが、強い風にさらされる場所での生育は難しい。	
特記事項		
参考文献		

文責: 村瀬正成